

## iシェアーズ 月次ETF\*資金流入レポート



**渡邊 雅史**  
ブラックロック・ジャパン株式会社  
iシェアーズ事業部  
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.5兆ドル（約250兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生\*\*しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

\*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

\*\*ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

### 2014年11月のETF資金流入 ～継続した米国株ETFへの流入～

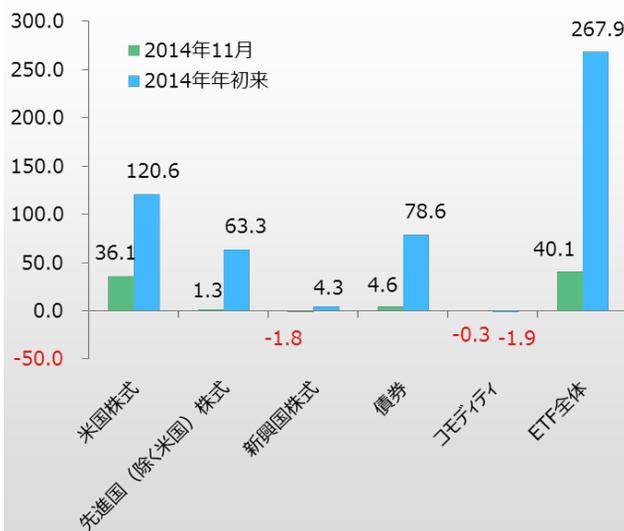
2014年11月の世界のETFへの資金流入は、401億ドル（約4.8兆円）の流入となりました。

米国経済の改善と他地域における経済成長の鈍化がもたらす各中央銀行の緩和期待から、米国株式へは大型株のファンドを中心に361億ドルの資金が流入しました。また、海外に上場している日本株のETFにも、GPIFによる日本株への資産配分の増加への期待から資金流入が見られました。しかしながら、日本国内に上場している日本株ETFからの流出によって相殺された形となりました。

債券に関しては、特にECB（欧州中央銀行）による債券購入とさらなるアクションの可能性の示唆から、特に欧州の債券ETFに20億ドルの資金流入がありました。

中国の金利引き下げは米国と欧州に上場している中国株関連のETFへの資金流入を呼び込みましたが、中国に上場しているファンドからは流出となりました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】



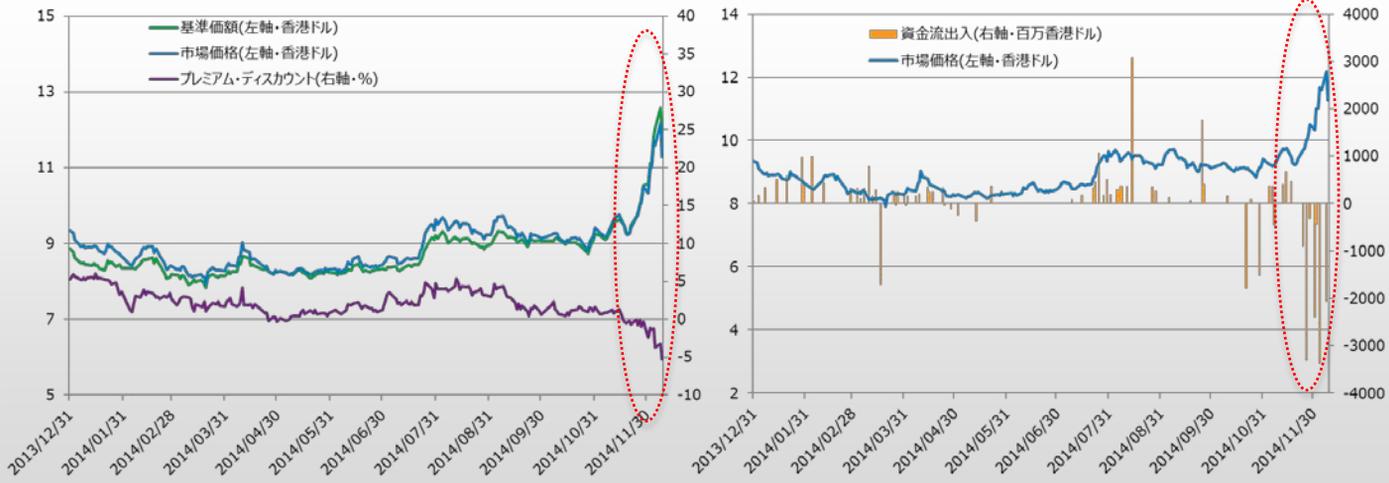
出所：ETP Landscape Nov 2014, BlackRock

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

## ETFから見る世界の投資家動向 ～香港上場の中国A株ETF～

## 【2823 HK (iシェアーズ FTSE 中国A50 インデックス ETF)の基準価額、市場価格、プレミアム・ディスカウント\*と資金流出】

\*プレミアム・ディスカウント=ETFの市場価格と基準価額の差のこと。市場価格の方が高い場合をプレミアム、低い場合をディスカウントという。



出所：ブラックロック、ブルームバーグ

香港取引所と上海取引所の接続や利下げのニュースを受けて、先月の中国株（特にA株）は急上昇しました。中国国内のA株市場が大きく上昇したことで、当然ながら香港に上場しているA株のETFの価格は急騰しましたが、基準価額と市場価格の差はマイナス（市場価格の方が割安）となりました。過去は若干のプレミアムであったものがここまでのディスカウントになるのは比較的珍しい現象です。香港に上場しているA株のETFは直接A株を売買できない投資家（一般的に外国の投資家）がA株に投資をする際の便利なツールとなっています。一方で、H株に対してA株だけが買われている状態では、A株とH株の価格の収斂の方向に賭ける投資家も多くなったと考えられます。そのため、香港市場でA株のETFの売りとH株の買いというポジションを取る投資家が多くなったと考えられます。結果、A株のETFはディスカウントとなり、資金が流出したと考えられます。価格が上昇しているのにディスカウントというのは香港に上場しているA株のETFという特殊な事情によるもので、このことは投資家が、香港に上場しているETFを通してA株というアクセスが難しい市場のポジションを取っていることを示しているともいえます。

**ETFの主な投資リスクについて**

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

**手数料、費用等について**

【売買時の手数料】当ETFを売買する際の手数は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。